

## 情報システム学会春講演会 2026 開催報告書

情報システム学会春講演会 2026 は、下記のとおり実施いたしましたのでご報告します。

日時：2026 年 3 月 28 日（土）14:00～16:30

実施方法：ハイブリッド（対面・オンライン）

場所：TKP スター会議室飯田橋

講師：秋田 義一氏（一般社団法人語力総合研究所 理事長、技術士（情報工学部門））

テーマ：防災情報システムの社会への展開 ―現状と課題―

当日は 22 名が参加しました（会場 17 名、オンライン 5 名）。

講演では、さまざまな自治体で実際に運用されている防災情報システムの事例について、画像や動画を用いながら具体的にご紹介いただきました。災害対策本部での情報集約・共有の仕組みや現場との連携のあり方が示され、実務に即したシステム像への理解が深まりました。同時に、技術の活用や導入にとどまらず、運用が現場に定着しているかが重要な論点となることが問題提起されました。

また、防災情報システムの主体は自治体に限らず、民間企業や NPO、地域コミュニティへと広がるべきであるとの視点が示されました。多様な主体が関与する運用体制の必要性に加え、操作者が平時から十分にシステムに習熟していないことや、高齢者が情報にアクセスしづらい現状にも言及がありました。これらを踏まえ、情報システムは人間活動を含む社会的なシステムであることを認識し、人と環境との相互作用をもたらすような、人間にやさしい設計と運用が重要であることが改めて確認されました。

質疑応答では、システムの実効性をどのように評価するか、担当者不在時の運用継続性をいかに確保するかといった論点が取り上げられました。特に、属人化や引き継ぎ不足によりシステムが活用されない事例がみられるため、平時からの訓練や体制整備が重要であることや、そのような運用上の課題を前提として、セキュリティと迅速な情報活用のバランスについても議論が及びました。防災情報システムではセンシティブな個人情報扱うため、生命・身体を保護を優先した情報共有の必要性が指摘される一方で、DV やストーカー被害等への配慮も不可欠です。情報システムや制度の設計においては、平時の厳格性と緊急時の柔軟性をどのように両立させるかが重要な課題として議論されました。

講演終了後には、近隣の飲食店にて懇親会を開催しました。防災情報システムの議題や、情報システム全般や学会活動に関する話題について活発な意見交換が行われました。

なお、当日は開始前の音声配信の調整に時間を要し、オンライン参加者の一部において聴講しづらい場面が生じたことをお詫びいたします。今後は運営体制および事前確認の強化を図り、円滑な配信環境の確保に努めてまいります。

